

# 2025年度第3四半期決算説明会

---

2026年2月5日

# 業績概要

越路 和朗

執行役員

チーフ ファイナンシャル オフィサー

# 2025年度第3四半期決算サマリー

---

上半期に比べ減収減益幅は縮小し、第3四半期も想定通りの着地

## ■ 2025年度第3四半期実績

売上収益：2,108億円（前年同期比-5.4%）

コア営業利益：348億円（前年同期比-20.3%）

親会社帰属四半期利益：218億円（前年同期比-20.6%）

## ■ 事業関連Update

ジクアスLX：12月1日より出荷再開、1月19日より限定出荷解除

中長期成長：日本で後天性眼瞼下垂治療剤アップニークミニ点眼液0.1%が承認取得

中央社会保険医療協議会にて近視進行抑制治療薬の選定療養への追加が了承

中国で春季力タル治療剤Verkaziaを上市

## ■ 通期の見通し

業績予想：5月13日開示より変更なし

配当予想：期末配当19円/株、年間38円/株（年間2円増配）

# 2025年度第3四半期実績

	2024年度 第3四半期実績	2025年度 第3四半期実績
USD (円)	152.63	148.91
EUR (円)	164.96	171.67
CNY (円)	21.33	20.88

(単位：億円)	2024年度 第3四半期		2025年度 第3四半期			実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率
	実績	対売上 収益比率	Q1 QTD	Q2 QTD	Q3 QTD			
<b>売上収益</b>	2,228	-	687	691	729	<b>2,108</b>	-	<b>-5.4%</b>
売上原価	976	44%	316	291	321	928	44%	-4.9%
<b>売上総利益</b>	1,251	56%	371	401	407	<b>1,179</b>	<b>56%</b>	<b>-5.7%</b>
販売費及び一般管理費	647	29%	212	213	223	648	31%	+0.1%
研究開発費	168	8%	62	62	60	184	9%	+9.5%
<b>コア営業利益</b>	437	20%	97	126	125	<b>348</b>	<b>17%</b>	<b>-20.3%</b>
製品に係る無形資産償却費	66	3%	22	23	22	67	3%	+0.2%
その他の収益	4	0%	2	2	-1	3	0%	-18.8%
その他の費用	22	1%	1	2	-1	2	0%	-89.3%
<b>営業利益</b>	352	16%	76	103	103	<b>282</b>	<b>13%</b>	<b>-19.8%</b>
金融収益	14	1%	6	3	6	13	1%	-6.4%
金融費用	13	1%	7	4	4	15	1%	+12.6%
税引前四半期利益	353	16%	75	102	104	281	13%	-20.5%
法人所得税費用	80	4%	16	22	23	61	3%	-23.7%
(税負担率)	23%	-				22%	-	-0.9pt
<b>四半期利益</b>	273	12%	59	80	81	<b>220</b>	<b>10%</b>	<b>-19.6%</b>
親会社帰属四半期利益	275	12%	59	81	79	218	10%	-20.6%
<b>コア四半期利益</b>	338	15%				<b>271</b>	<b>13%</b>	<b>-19.8%</b>
<b>EBITDA</b>	506	-				<b>420</b>	-	-17.0%

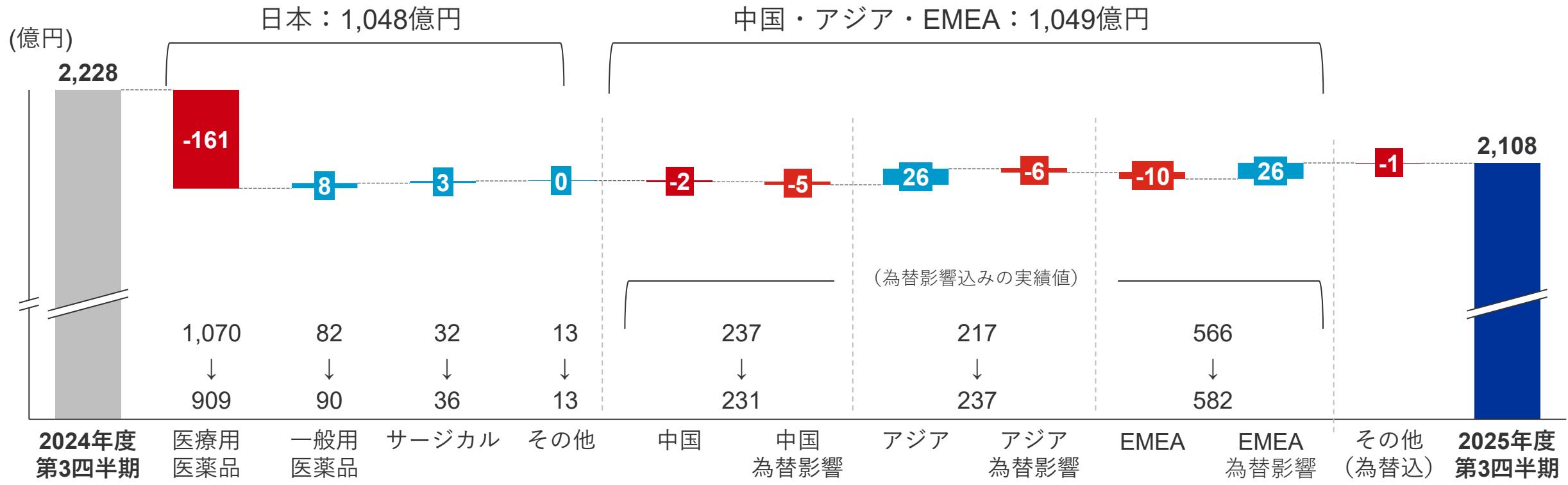
## 対業績予想比

- 売上・利益共に計画通りの推移

## 対前年比

- 売上収益減少要因
  - Q1の在庫調整：日本・中国
  - Q2の主力品薬価の市場拡大再算定：日本
- 販管費
  - ほぼ横ばい。メリハリある支出
- 研究開発費
  - パイプライン進階に伴う増加

# 2025年度第3四半期売上収益増減要因



日本 対前年同期 -12.4% : アレジオン類の前期末流通在庫過多及びクリーム剤の前期初期出荷の反動や市場拡大再算定による8月からの主力品薬価引き下げ

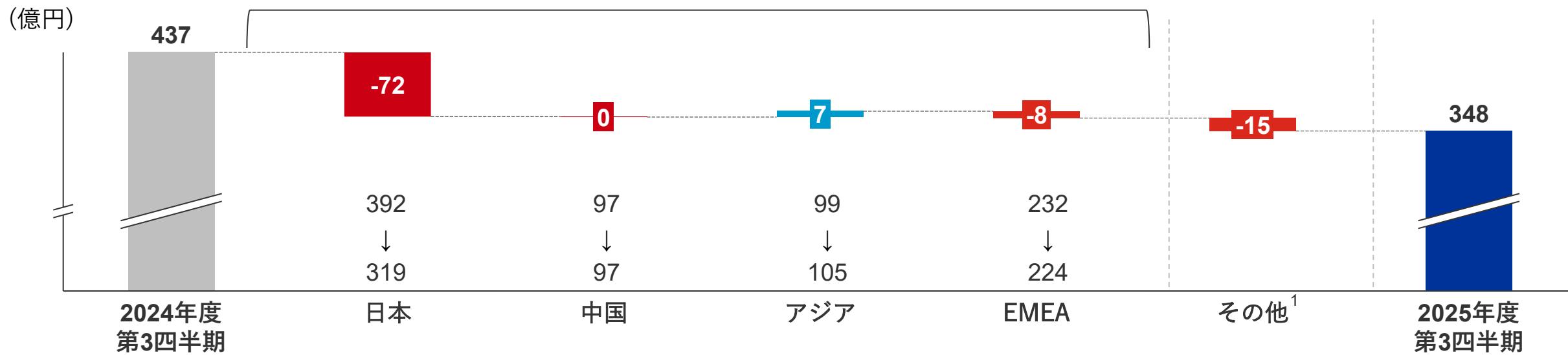
中国 対前年同期 -2.8% (為替影響除外 -0.7%) : 流通在庫水準 (クラビット、ヒアライン) の正常化により回復基調

アジア 対前年同期 +9.3% (為替影響除外 +12.2%) : 緑内障やドライアイ製品が堅調に推移し、通期予想に対して順調

EMEA 対前年同期 +2.8% (為替影響除外 -1.9%) : 昨年度の技術導出による一過性収益を除くと増益

# 2025年度第3四半期コア営業利益増減要因

地域事業貢献利益の増減：-74億円



## 日本

前年比減益だが、計画通りの進捗

## 海外（為替影響込み）

中国：費用適正化により前年並みの利益を確保し、計画通りの進捗

アジア：堅調な売上推移及び費用適正化により増益を確保し、計画をやや上回る進捗

EMEA：計画をやや上回る進捗。昨年度の技術導出の一過性要因を除くと増益

地域事業  
貢献利益の増減

その他増減

R&D費用等の増加による影響

# 2025年度 連結業績予想（5月13日開示より変更なし）

	2024年度	2025年度
	通期実績	通期予想
USD (円)	152.70	145.00
EUR (円)	163.57	160.00
CNY (円)	21.29	20.50

(単位：億円)	2024年度		2025年度		
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	3,000	-	2,940	-	-2.0%
売上原価	1,290	43%	1,230	42%	-4.6%
売上総利益	1,710	57%	1,710	58%	-0.0%
販売費及び一般管理費	875	29%	920	31%	+5.1%
研究開発費	241	8%	250	9%	+3.7%
コア営業利益	594	20%	540	18%	-9.1%
ノンコア費用	4	0%	-	-	-100.0%
製品に係る無形資産償却費	88	3%	87	3%	-1.3%
その他の収益	6	0%	7	0%	+18.8%
その他の費用	39	1%	20	1%	-48.1%
営業利益	469	16%	440	15%	-6.1%
金融収益	40	1%	13	0%	-67.5%
金融費用	27	1%	14	0%	-48.5%
持分法による投資損失	7	0%	-	-	-100.0%
税引前当期利益	475	16%	439	15%	-7.5%
法人所得税費用	116	4%	104	4%	-10.6%
(税負担率)	25%	-	24%	-	-
当期利益	359	12%	335	11%	-6.6%
親会社帰属当期利益	363	12%	340	12%	-6.2%
ROE	12%		12%		
EPS (IFRS) 円	104	-	103	-	-1.3%
					64.4%

## ■ 売上変動要因

### 国内

- 花粉飛散期におけるアレジオン類の売上
- 網膜疾患領域市場成長

### 海外

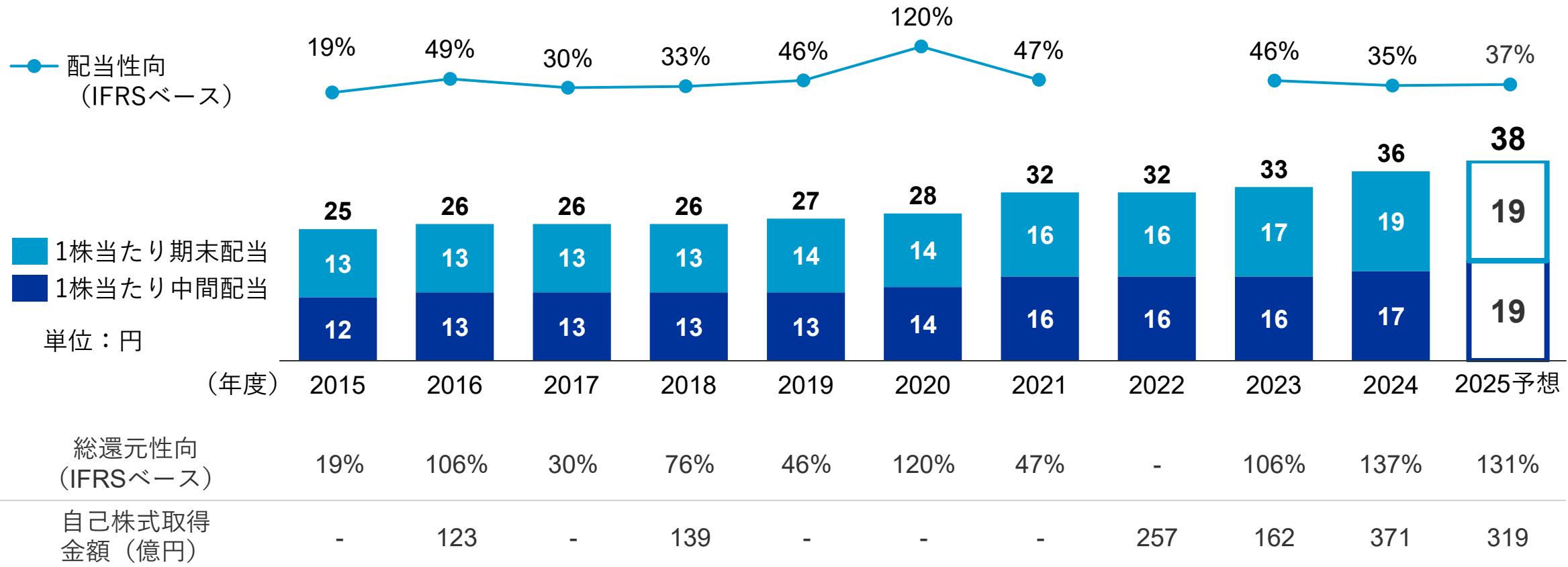
- 中国の回復ペース

## ■ コア営業利益変動要因

- 研究開発費は計画通り優先的に投下
- 上記売上に基づく製品構成変化による原価率改善
- 販管費は売上・粗利が変動した場合でも、レジリエントに管理し、利益確保

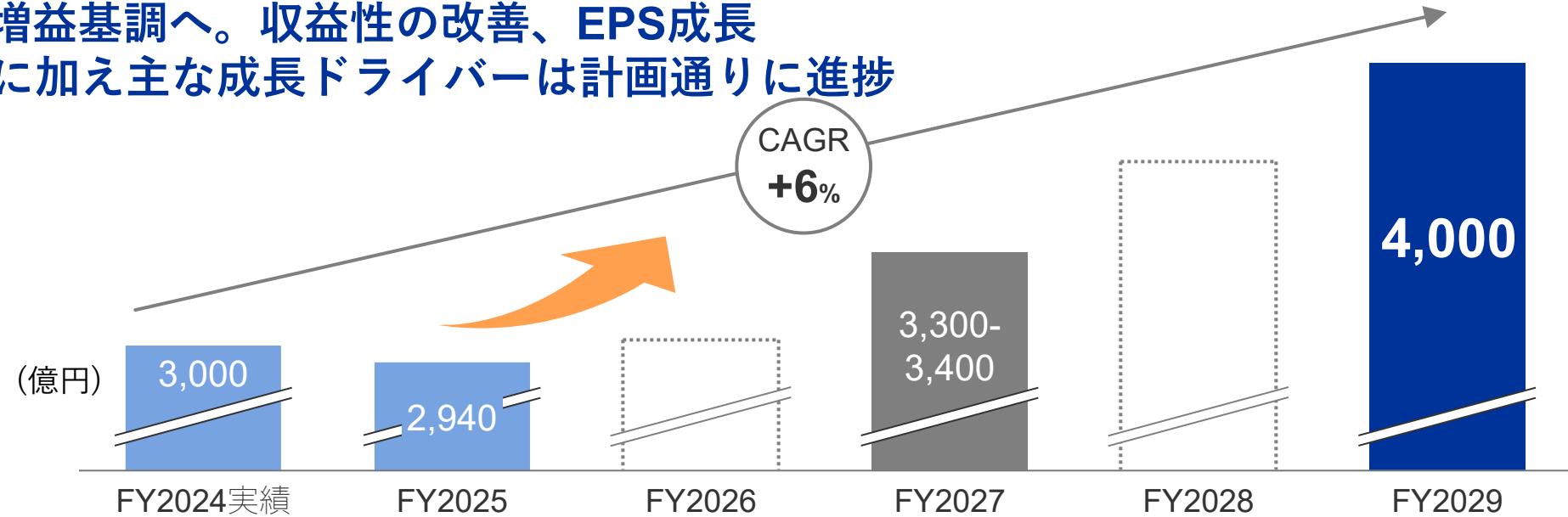
## 株主還元

- 期末配当予想19円/株、年間38円/株（年間2円増配）
- 2022年度から発行済み株式数の20%を圧縮



## 2029年度に向けた売上収益の成長前提

2026年度以降は増収増益基調へ。収益性の改善、EPS成長  
ジクアスLXの再出荷に加え主な成長ドライバーは計画通りに進捗



コア営業利益率	20%	18%	19~20%	20%
株主還元	配当性向	35%	37%	40%を目指す
	自社株買	371億円	319億円	株価、投資需要、余資の状況を考慮し機動的に実施

# 研究開発アップデート

ピーター・サルスティグ

執行役員

チーフ メディカル オフィサー

# 2025年度第3四半期 R&Dアップデート

## 未参入市場への 参入

Eflimrufusp alfa  
STN1014301/RC28-E

滲出型  
加齢黄斑変性

中国でのP3試験で、**LPO<sup>1</sup>**

## 新規市場の創出

オキシメタゾリン塩酸塩  
STN1013800/RVL-1201  
アップニークミニ

眼瞼下垂

日本で、**承認**

ニンテダニブ  
STN1014200/CBT-001

翼状片

日本でのP2b試験で、**FPI<sup>2</sup>**

## 既存市場の拡大

シクロスボリン  
STN1007603/DE-076C  
Verkazia

春季カタル

中国で、**上市**

エピナスチン塩酸塩  
(眼瞼クリーム)  
STN1011402

アレルギー性  
結膜炎

アジアで、**申請**

中国でのP3試験で、**FPI**

ネタルスジルメシル酸塩・  
ラタノプロスト (配合剤)  
STN1014003  
Rocklatan®/Roclanda®

緑内障

日本でのP3試験で、**LPI<sup>3</sup>**

オロダテロール塩酸塩  
STN1014101

アレルギー性  
結膜炎

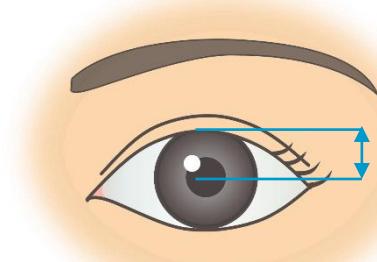
日本での**P1/2a試験準備を開始**

# 後天性眼瞼下垂治療剤であるアップニークミニ点眼液0.1% 日本初の承認を取得

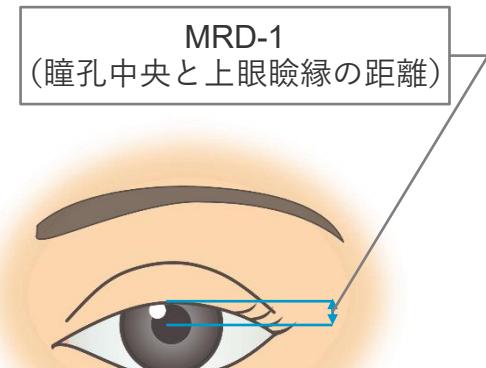
薬価基準未収載医薬品として2026年春に発売予定。  
自由診療のため、患者さんへの販売価格は各医療機関が設定。  
日本での後天性眼瞼下垂の推定潜在患者数は約3,000万人<sup>1</sup>。

## 眼瞼下垂

- 何らかの原因によって上眼瞼が下がってくる状態  
眠そうに見える、物が見えにくい  
肩こり、頭痛、疲れやすい等
- 加齢やコンタクトレンズの長期装用は上眼瞼の下垂症状のリスク要因<sup>2,3</sup>。
- これまでの治療は手術



正常



眼瞼下垂

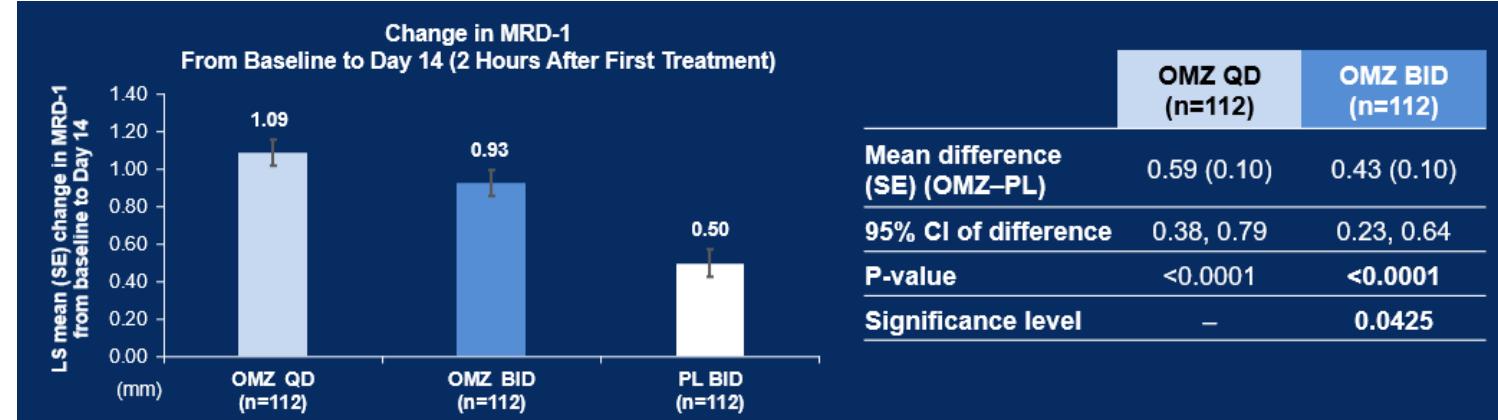
## アップニークミニ点眼液0.1% (STN1013800)

- 一般名 : オキシメタゾリン塩酸塩
- 効能・効果 : 後天性眼瞼下垂
- 用法・用量 : 通常、成人には、  
1回1滴、1日1回点眼する

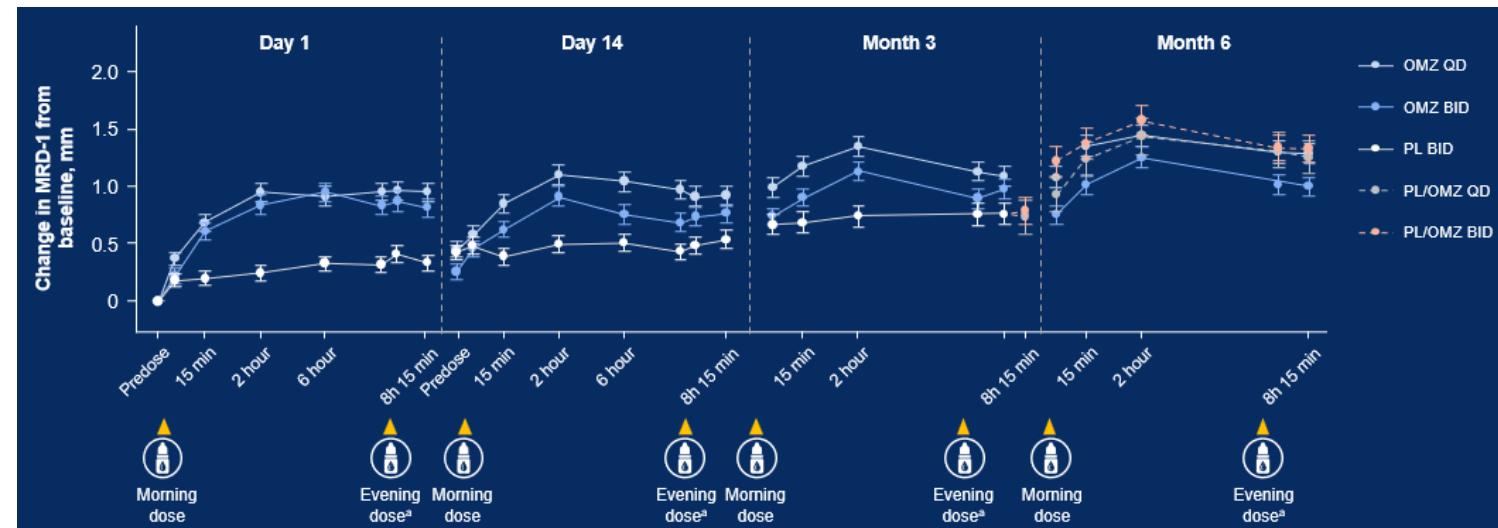


# 日本でのP3でSTN1013800 (OMZ<sup>1</sup>) はプラセボと比較しMRD-1を有意に改善 安全性・忍容性を確認

- 主要評価項目：投与開始14日後(初回投与2時間後)のMRD-1のベースラインからの変化量



- 副次評価項目：6か月までの各時点におけるMRD-1のベースラインからの変化量



13 1.OMZ : oxymetazoline hydrochloride 0.1%、オキシメタゾリン塩酸塩0.1% 2.QD : once daily、1日1回点眼 3.BID : twice daily、1日2回点眼 4.PL : placebo、プラセボ

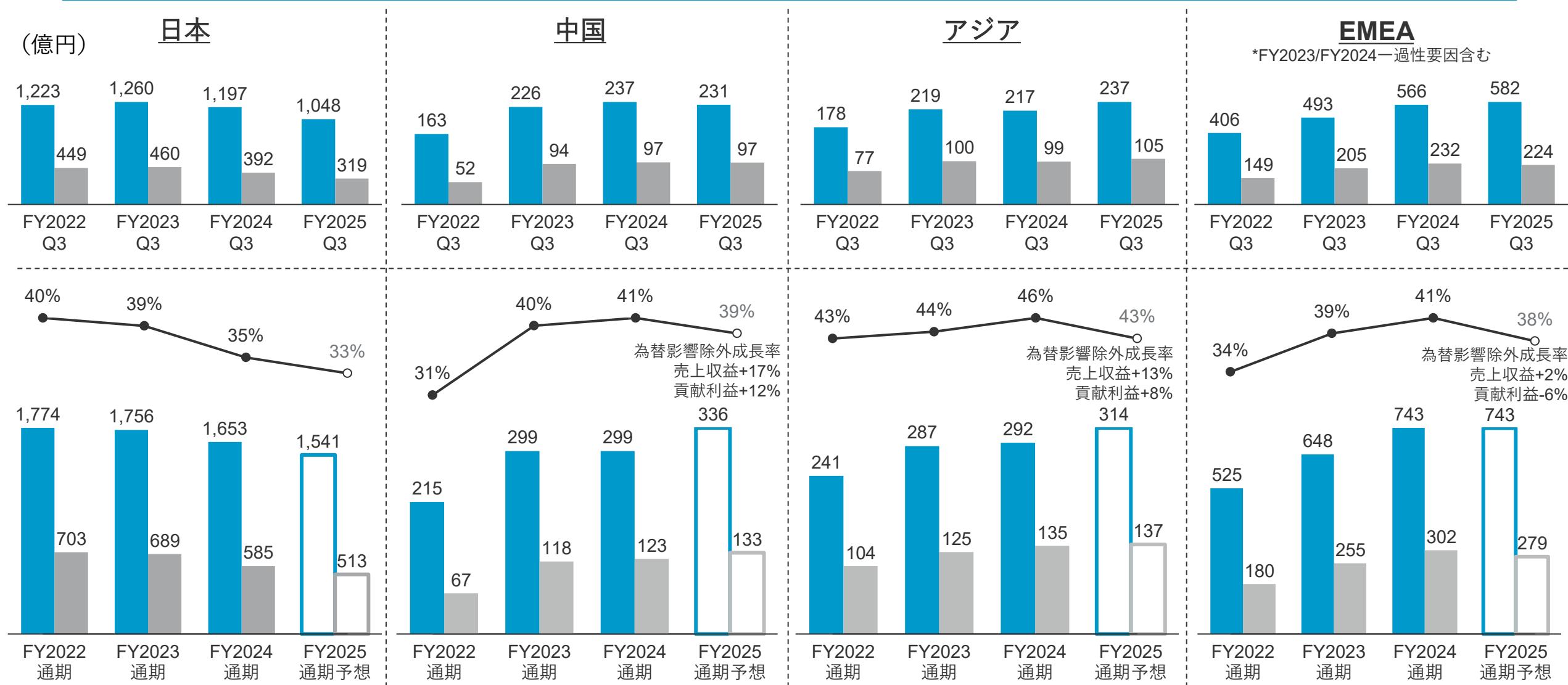
\*第129回日本眼学会総会2025

- 主要評価項目である投与開始14日後(初回投与2時間後)のMRD-1のベースラインからの変化量において、QD<sup>2</sup>及びBID<sup>3</sup>群はPL<sup>4</sup>群に比べ統計学的に有意な改善効果を示した
- 改善効果は最大6ヵ月まで維持された
- QD群で、投与15分後からMRD-1の改善が認められ、投与後8時間15分まで持続した
- α刺激薬で知られる反応性の低下(脱感作) やリバウンド現象は認められなかった
- 最長6ヵ月間のQD及びBID群の安全性と忍容性が確認された

# Appendix

# 地域別売上収益・貢献利益

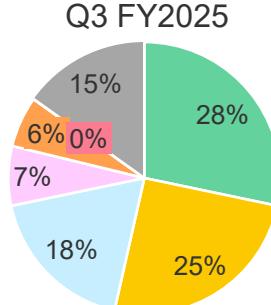
■ 売上収益 ■ 貢献利益 ● 貢献利益率



# 2025年度第3四半期 仕向地域別売上収益

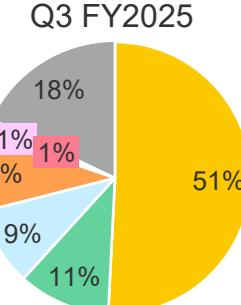
## 連結合計

YTD	Q3 FY2024 (参考)	Q3 FY2025
アイリーア 硝子体内注射液1	603億円	530億円
コンプト配合点眼液	204億円	205億円
ヒアレイン点眼液	133億円	125億円
その他	1,287億円	1,247億円
合計	2,228億円	2,108億円



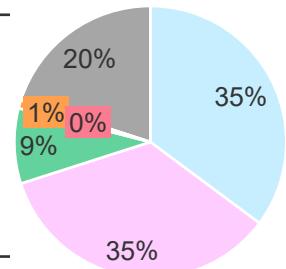
## 日本

YTD	Q3 FY2024 (参考)	Q3 FY2025
アイリーア 硝子体内注射液1	603億円	530億円
アレジオン点眼液2	156億円	97億円
ジクアス点眼液 (ジクアスLX含む)	49億円	59億円
その他	388億円	362億円
合計	1,197億円	1,048億円



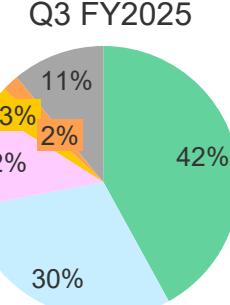
## 中国

YTD	Q3 FY2024 (参考)	Q3 FY2025
クラビット点眼液	71億円	71億円
ヒアレイン点眼液	68億円	65億円
タプロス点眼液	18億円	18億円
その他	80億円	76億円
合計	237億円	231億円



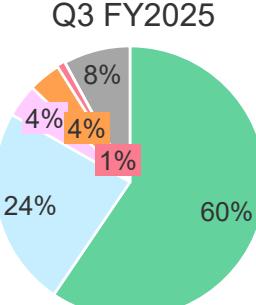
## アジア

YTD	Q3 FY2024 (参考)	Q3 FY2025
コンプト配合点眼液	52億円	53億円
ヒアレイン点眼液	28億円	32億円
クラビット点眼液	21億円	22億円
その他	115億円	130億円
合計	217億円	237億円

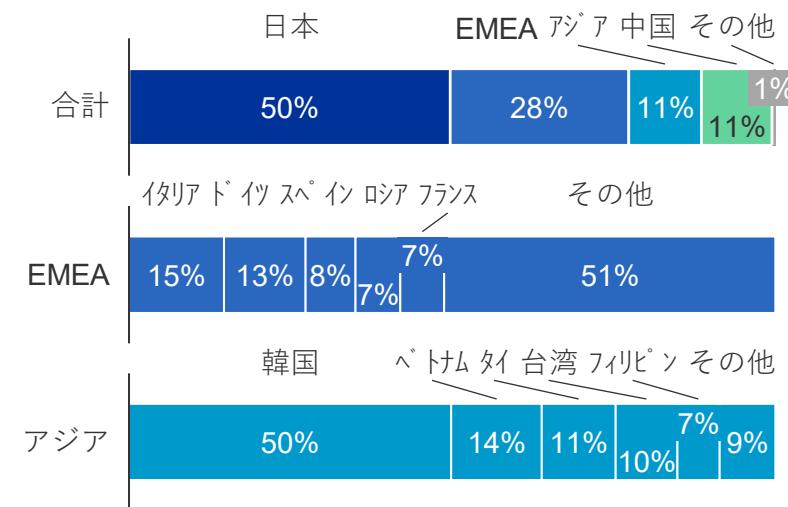


## EMEA

YTD	Q3 FY2024 (参考)	Q3 FY2025
コンプト配合点眼液	130億円	139億円
Ikervis	68億円	80億円
タプロス点眼液	66億円	64億円
その他	302億円	300億円
合計	566億円	582億円



## 主要国・地域別売上比率 (Q3 FY2025)



緑内障治療薬/デバイス

角結膜疾患治療剤

抗アレルギー点眼剤

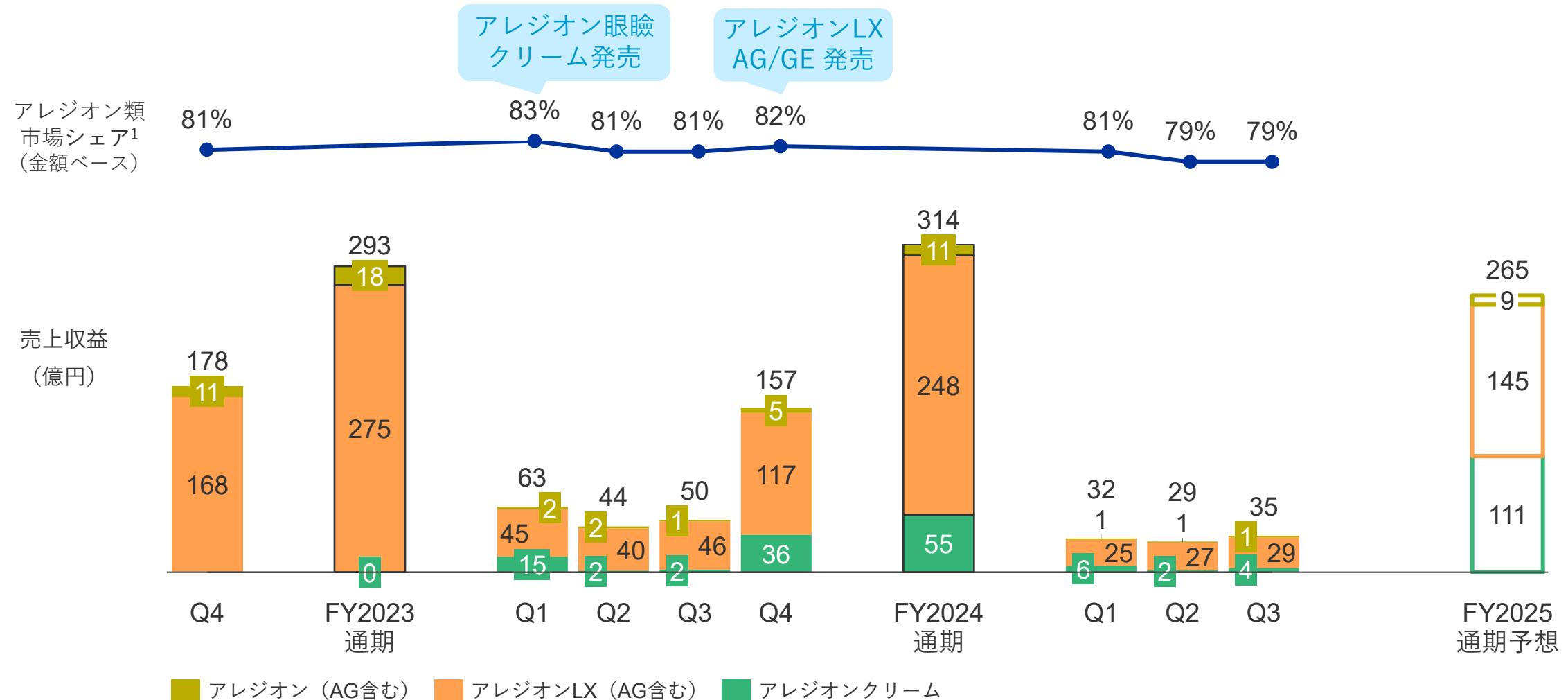
その他

眼科用抗VEGF阻害剤

抗菌点眼剤

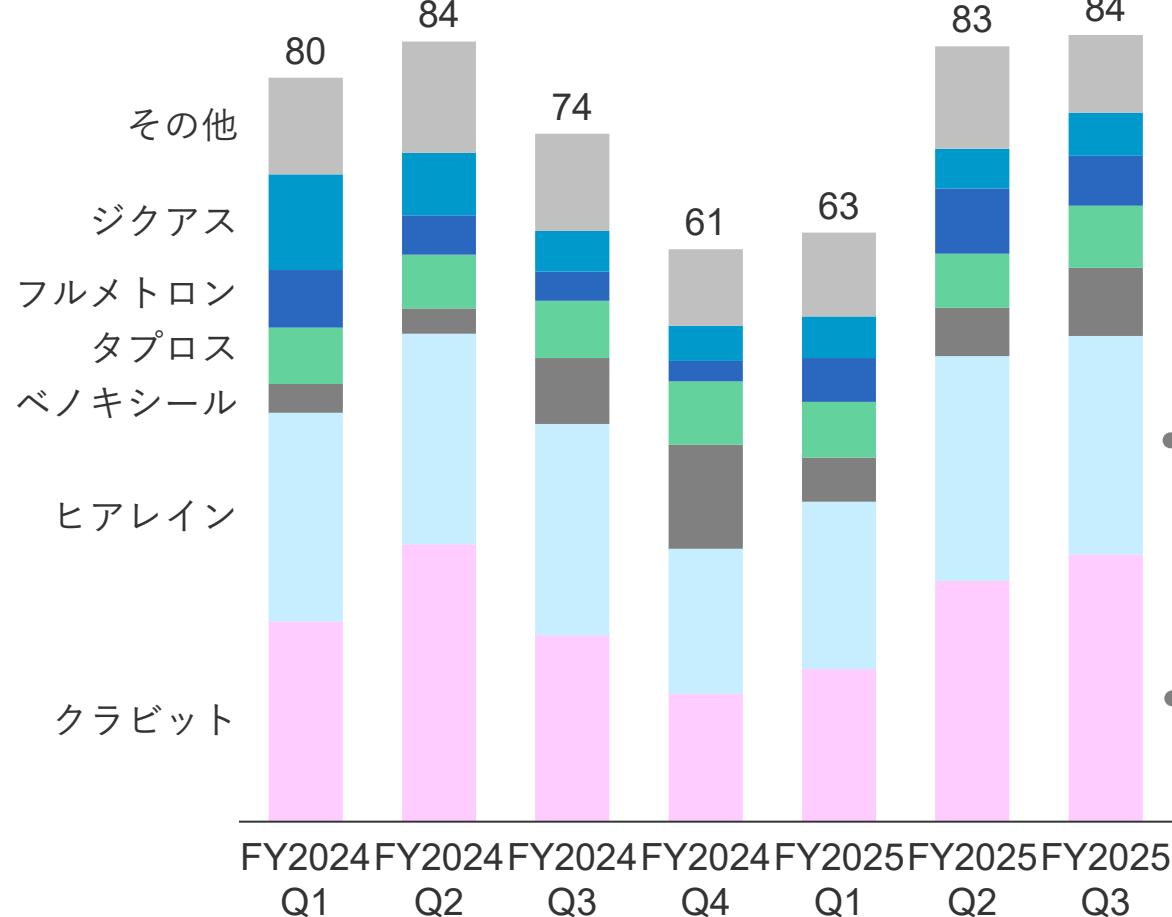
近視進行抑制治療剤

# 日本でのアレジオン類の現状

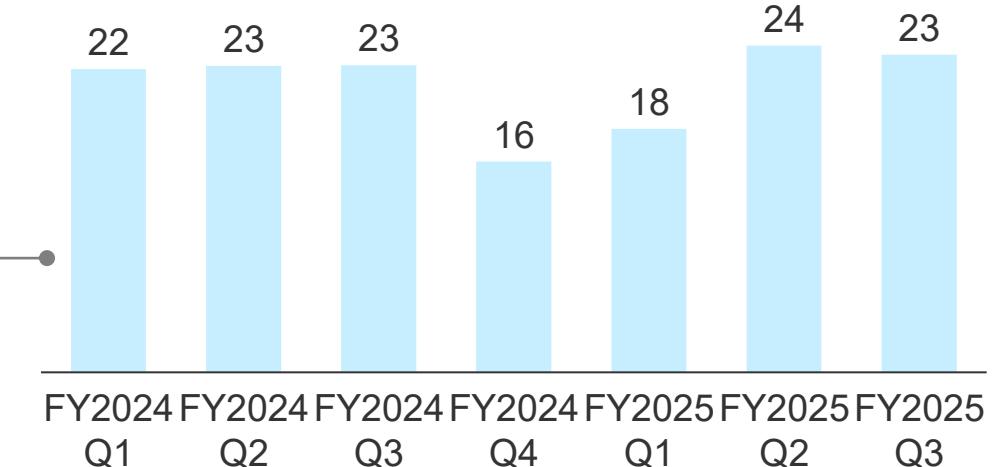


# 中国売上推移

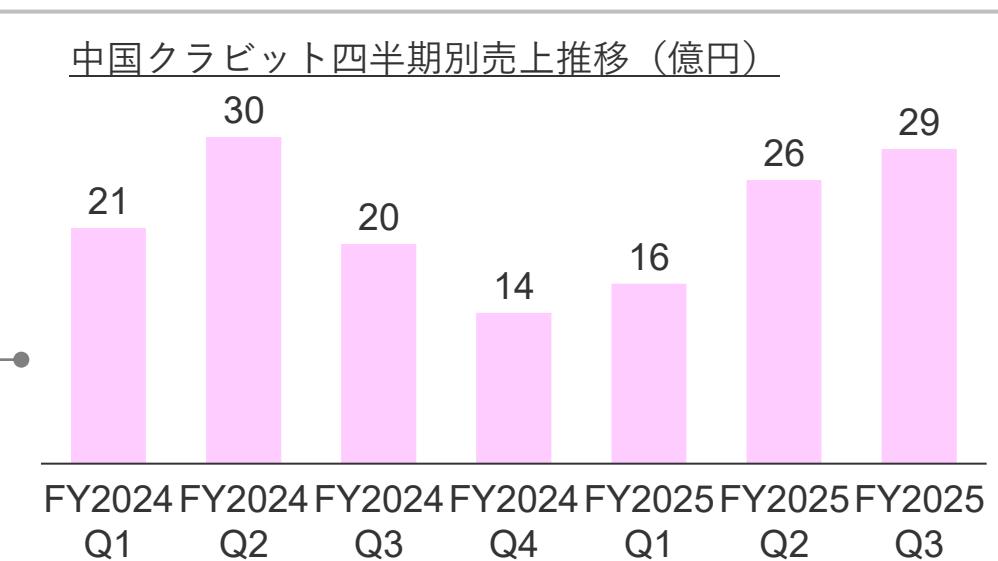
中国四半期別売上推移（億円）



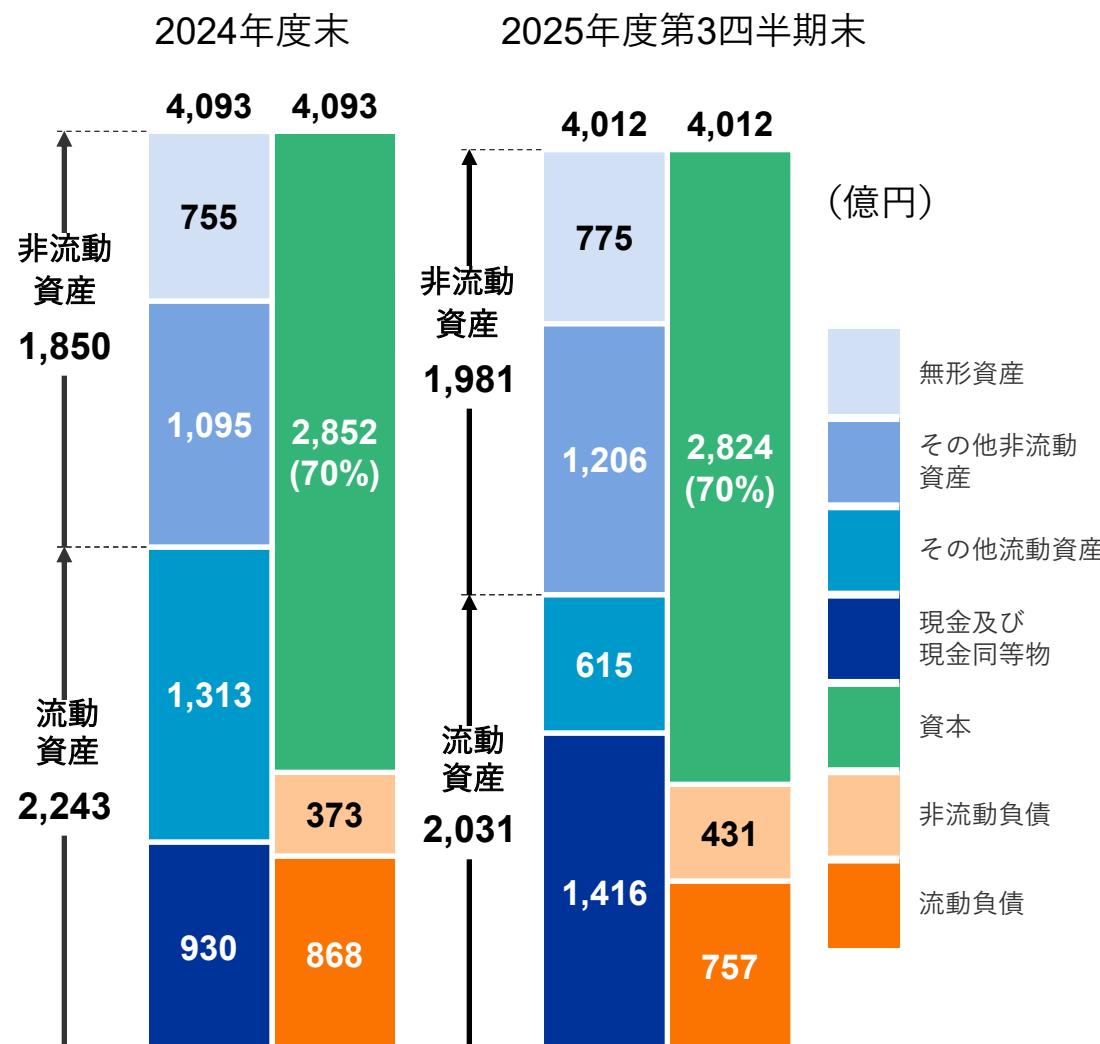
中国ヒアレン四半期別売上推移（億円）



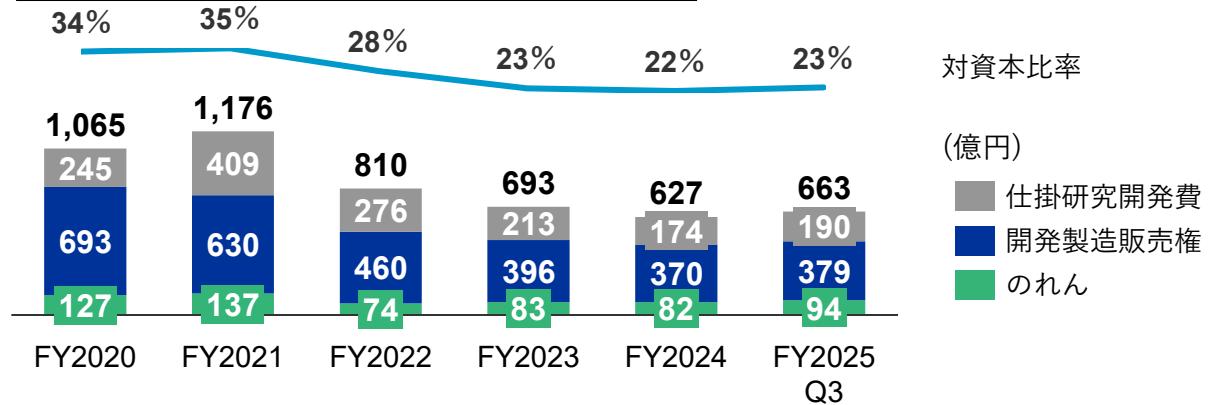
中国クラビット四半期別売上推移（億円）



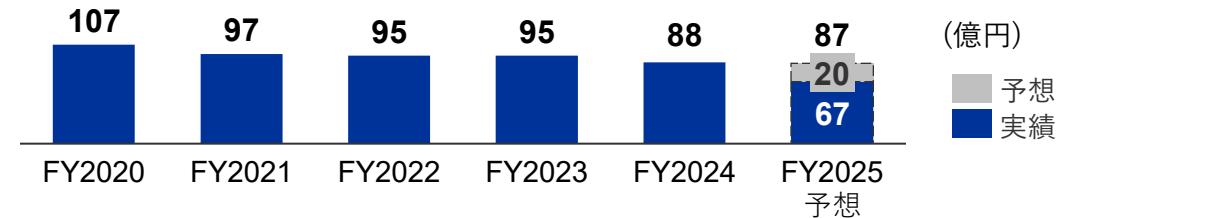
# B/Sを含む財務状況



## 製品に係る無形資産・のれんの状況



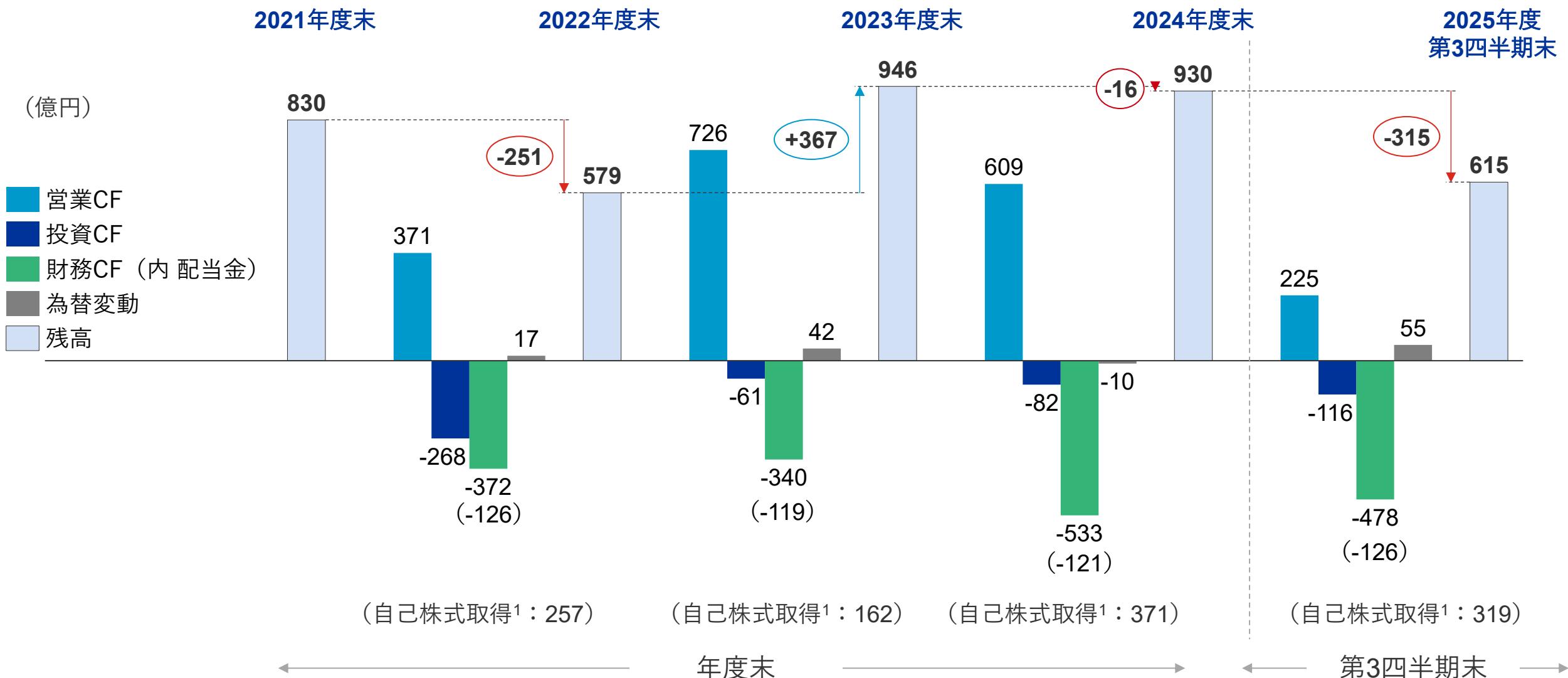
## 製品に係る無形資産償却費の状況



## ROE・ROIC・CCC<sup>1</sup>

	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025 Q3	FY2025 予想
ROE	3%	8%	-	9%	12%	-	12% <sup>2</sup>
ROIC	5%	12%	-	16%	18%	-	17% <sup>3</sup>
CCC	220日	190日	194日	167日	170日	210日	165日

## キャッシュ・フロー



# 外国為替レート前提と感応度

## 為替レート前提

(円)

	2024年度 第3四半期 実績	2025年度 第3四半期 実績	2025年度第3四 半期 vs 2024年 度第3四半期	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	2025年度 vs 2024年度	2025年度第3四 半期 vs 2025年 度通期予想
USD	152.63	148.91	97.6%	152.70	145.00	95.0%	102.7%
EUR	164.96	171.67	104.1%	163.57	160.00	97.8%	107.3%
CNY	21.33	20.88	97.9%	21.29	20.50	96.3%	101.9%

## 為替感応度

2025年度業績予想における予想レート比1%円安時の影響

(億円)

	合計 <sup>1</sup>	USD	EUR	CNY
売上収益	+12	+0.2	+6.7	+3.3
コア営業利益	+1	-0.6	+0.7	+0.7
営業利益 (IFRS)	+1	-0.7	+0.5	+0.6

1 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値 (小数点以下四捨五入)

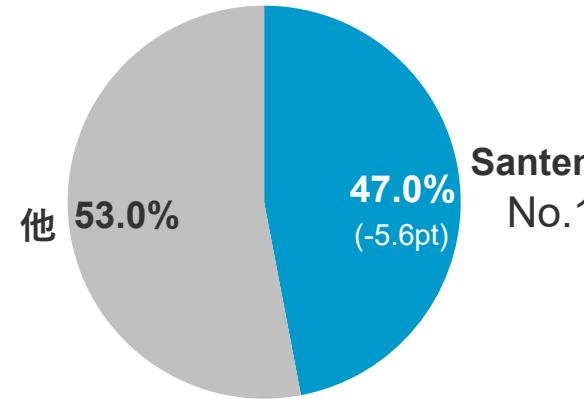
2025年度第3四半期実績為替影響  
(対前期レート) (億円)

	合計
売上収益	+14
コア営業利益	-1
営業利益 (IFRS)	-1

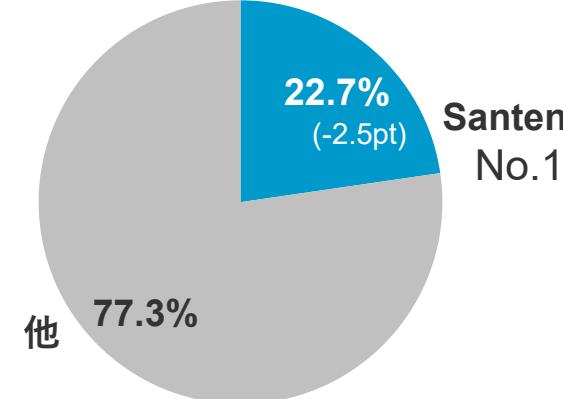
# 国内医療用眼科薬 市場概況 (2025年1月-2025年12月累計)

領域右記載数値：市場規模  
グラフ：マーケットシェア  
(括弧内は対前年増減)

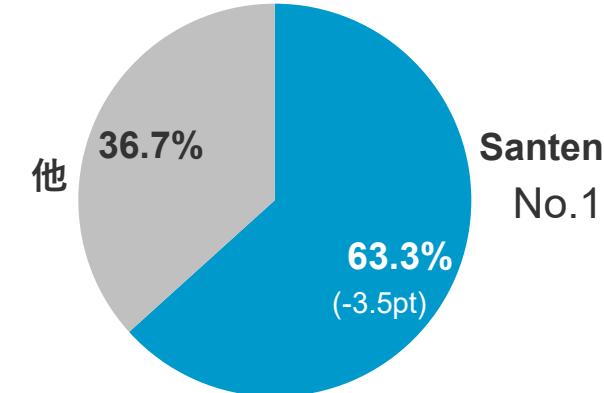
Total : 3,532億円



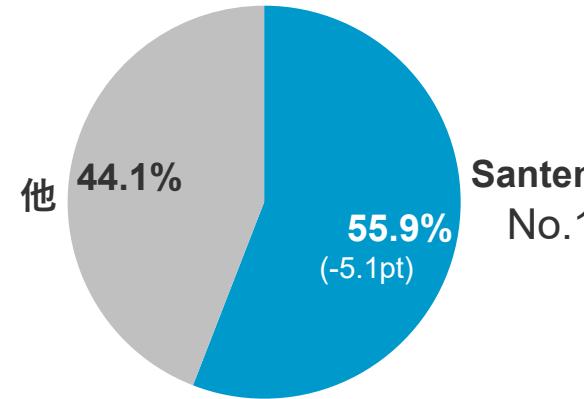
抗緑内障剤 : 723億円



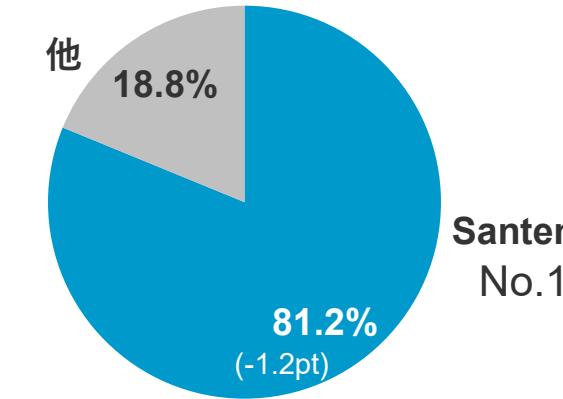
網膜疾患治療剤\* : 1,397億円



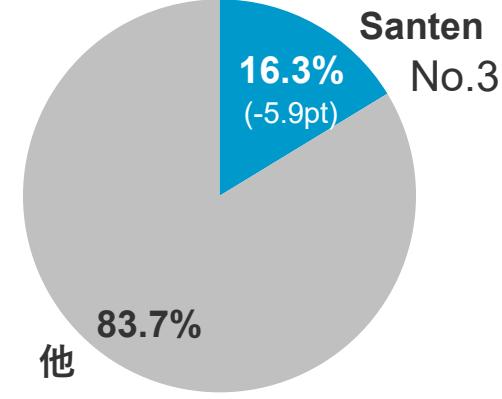
角膜疾患治療剤 : 281億円



抗アレルギー剤 : 400億円



抗菌点眼剤 : 50億円

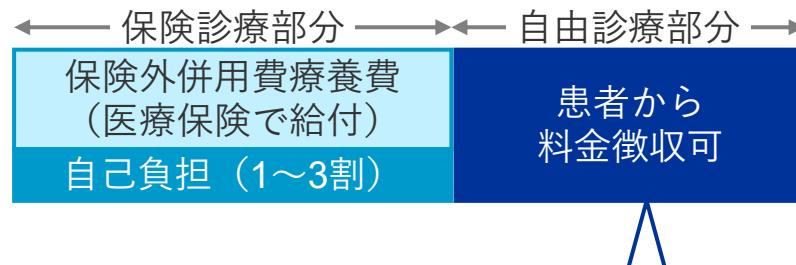


# 選定療養について（日本）

## ■ 保険診療と自由診療の併用（混合診療）は原則禁止



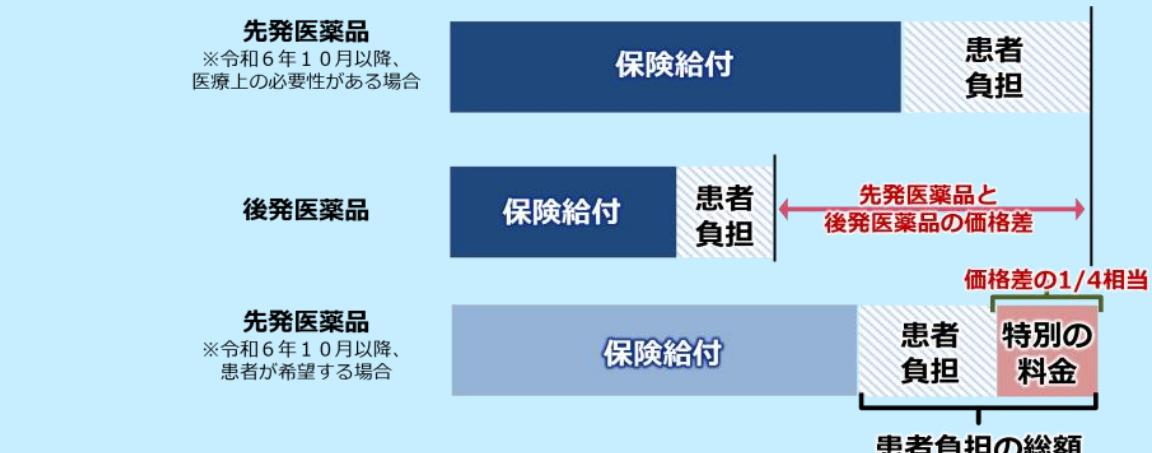
## ■ 保険外併用療養費制度の対象となったもののみ 保険診療との併用が可能



- 保険診療との併用が認められている療養
- 評価療養（先進医療など）
  - 患者申出療養（国内未承認の医薬品等）
  - 選定療養（長期収載品など）**

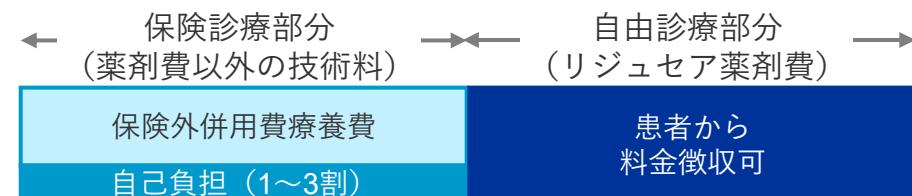
## 例) 後発医薬品がある先発医薬品（長期収載品）の選定療養

- 2024年10月より後発医薬品薬価収載後5年経過もしくは後発医薬品置換率50%以上の先発医薬品長期収載品の処方を患者が希望する場合は、特別の料金を患者が負担
- Santenの対象品目については次頁参照



## 近視進行抑制治療薬の選定療養への追加について

- 2026年1月中央社会保険医療協議会にて近視進行抑制治療薬の選定療養への追加が了承された
- 2月の答申を経て、3月に厚生労働省告示が正式に発出、6月に施行される見込み



## 選定療養影響：対象品目の売上実績および2025年度予想

対象品目は17品目<sup>1</sup>（濃度違い含む、2025年4月時点）

将来的にはジクアスやタプロス、タプロコム、アレジオンLXなどの後発品が出ている品目も対象になることを想定 (単位：百万円)

品目	領域	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2024 予想	FY2024 対予想比	FY2025 予想
コンプト <sup>2</sup>	緑内障	5,047	4,039	3,347	2,395	2,111	113%	1,073
アレジオン（4回点眼）	アレルギー	4,440	2,987	1,807	889	786	113%	532
ヒアレイン0.1/0.3 <sup>2</sup>	角膜/ドライアイ	5,800	4,949	4,268	3,848	3,590	107%	2,565
クラビット0.5/1.5	抗菌剤	1,754	1,285	1,126	679	674	101%	420
チモプトールXE 0.25/0.5	緑内障	3,092	2,807	2,445	1,516	1,550	98%	1,328
チモプトール0.25/0.5	緑内障							
アレギサール	アレルギー							
リボスチン	アレルギー							
フルメトロン0.1	その他							
サンテゾーン0.02/0.1	その他							
サンコバ	その他							
ミドリンM	その他							
合計		20,134	16,067	12,994	9,327	8,710	107%	5,918
日本事業合計		173,633	177,373	175,608	165,310	160,649	103%	154,109
対象品目比率		11.6%	9.1%	7.4%	5.6%	5.4%	-	3.8%

# グローバル開発の状況①

(2026年1月現在)  
青字は更新情報

## 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 <sup>1</sup>	
緑内障	タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タプコム、タプティコム	STN1011101 DE-111A	中国	現状：上市
	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN1011702	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
	セペタプロスト セタネオ	STN1012600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
			日本	現状：上市
			欧州	現状：P2（探索的試験）終了
	ラタノプロスト Catiolanzé	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州 アジア	現状：上市 現状：申請 計画：2026年度 承認

<sup>1</sup> 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

## グローバル開発の状況②

(2026年1月現在)  
青字は更新情報

### 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：申請 計画：2026年度 承認
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩・ ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014003	日本	現状：P3 計画：2027年度 P3終了
			欧州	現状：上市
		STN1014000 PG-324	アジア	現状：上市

## グローバル開発の状況③

### 角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
春季カタル	シクロスボリン Verkazia	STN1007603 DE-076C	中国	現状：2025年12月 上市
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：上市
			中国	現状：2026年1月 P3開始 計画：2026年度 P3終了
			アジア	現状：2025年12月申請 計画：2027年度 承認
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	中国	現状：申請 計画：2026年度 承認
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014101	日本	計画：2025年度 P1/2a開始
ドライアイ	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	日本	現状：P2b 計画：2026年度 P2b終了
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	STN1010904 <sup>1</sup>	米国 フランス インド	現状：P2a 計画：2025年度 P2a終了
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	日本	現状：追加P2a 計画：2025年度 追加P2a終了
翼状片	ニンテダニブ	STN1014200 CBT-001	日本	現状：2025年11月 P2b開始 計画：2026年度 P2b終了

<sup>27</sup> 1 当該プログラムはSantenが独占的実施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

## グローバル開発の状況④

(2026年1月現在)  
青字は更新情報

### 屈折異常領域

効能・効果		一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ、Ryjunea	STN1012700 DE-127	日本	現状：上市	
			中国	現状：P2/3 計画：2026年度 P2/3終了	
			アジア	現状：申請 計画：2026年度 承認	
		STN1012701 SYD-101	欧州	現状：上市	

### 網膜疾患領域

効能・効果		一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
糖尿病黄斑浮腫	Eflimrufusp alfa	STN1014300 RC28-E	中国	現状：申請 計画：2027年度 承認	
滲出型 加齢黄斑変性	Eflimrufusp alfa	STN1014301 RC28-E	中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了	
網膜色素変性症	jCell	STN6000100	—	現状：jCyte社P3試験計画策定中	

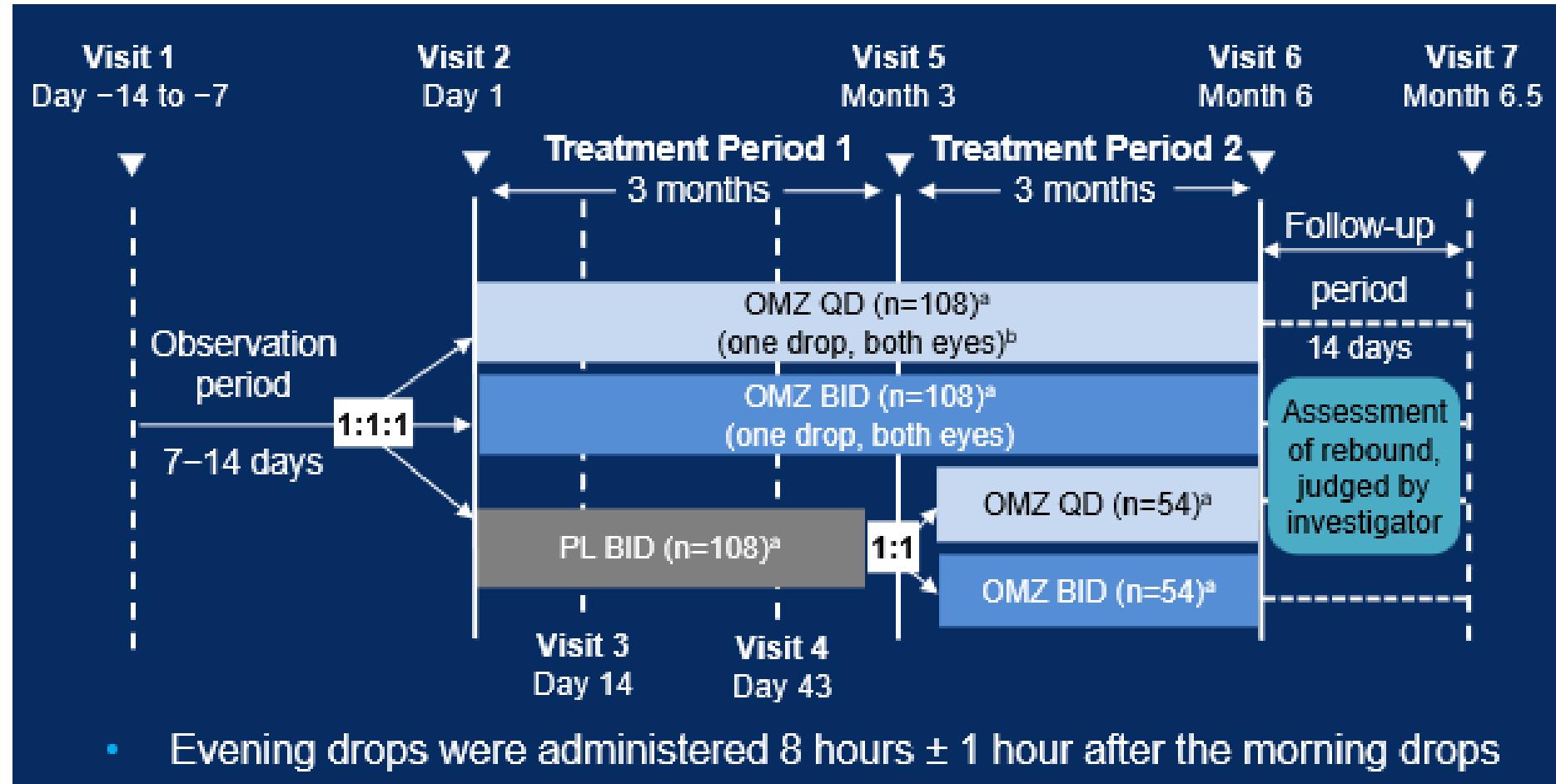
## グローバル開発の状況⑤

(2026年1月現在)  
青字は更新情報

### その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩 アップニークミニ	STN1013800 RVL-1201	日本	現状：2025年12月 承認 計画：2026年度 上市
			欧州	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2025年度 P3終了
			アジア	計画：2026年度 申請

# STN1013800 (OMZ<sup>1</sup>) の日本でのP3プロトコール



# 重要な注意事項

---

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を隨時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。  
医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

